

令和2年度第2回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和2年10月21日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 小児科 准教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)
事 務 局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)
山田 涼子(感染症対策推進課 技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:澤田委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○新型コロナウイルス感染症重症化症例の分析について

(澤田委員)

- ・新型コロナウイルス感染症は消失せず一定数みられている状態であり、今後同ウイルスの流行対策及び、重症化対策が重要になってくると考えられる。

(委員からの意見等)

- ・今回初めて向き合う感染症のため、新型コロナウイルス感染症については、まだ不明な点も多い。今夏にも流行したが、2009年の新型インフルエンザも9～10月から流行したが、その翌年からは季節性を示し冬のみ流行している。従来のコロनावirusによる風邪は、冬に流行するため、新型コロ

ウイルス感染症も同じ時期に流行しやすいことも考えられるが、この冬が終わってからその結果をみないと判断できない。

- これまでの報告から、新型コロナウイルス感染症を罹患しても時間とともに抗体が減衰していくことが知られている。そのため、ワクチンが開発されても、1度接種したら長期間効果が維持できるというものではなく、ある程度の間隔で接種しないと効果が維持できないことも予想される。
- 新型コロナウイルス感染症の重症化についても様々な報告がされているが、血栓・塞栓症が生じることが背景にあるのではないかとの見方がある。東洋人と比較して欧米人では血栓を生じるリスクが高いために、重症化率及び死亡率が比較的高いのではないかとの見方もある。

【情報提供すべき事項について】

(澤田委員)

- 新型コロナウイルス感染症の発症動向およびワクチン開発情報
- インフルエンザウイルス感染症に対するワクチン接種の情報

【情報提供（月番委員専門分野から）】

(石山委員)

- HIV 検査実施数の減少について
新聞報道によると、今年度 HIV 検査の実施数（4月～6月）が前年度同期の4分の1にとどまった。

【感染症対策推進課から情報提供】

(感染症対策推進課から)

- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について（一部改正）